

大会報告の募集案内

研究委員会委員長 河村能夫

例年より大会報告の申し込み期間が早まります。4月始めから6月末までです。ただし、報告要旨の締切りは、例年通り8月末までです。申し込み期間を早めることによって、7月配布予定の『通信』No. 180で、大会報告の題目内容をお知らせすることができます。

従って、95年度大会での報告を考えておられる方は、「仮題」の状態でも結構ですから、この申し込み期間中に申し込みをしてください。大会の運営基本方針は「自由報告」重視で、会員諸氏の自主的な報告が大会の成否を決定することになります。下記の要領に従って大会報告を募集致しますので、会員諸氏の積極的な参加を是非お願い致します。

①大会報告を希望する会員は、氏名と報告題目を所属・連絡先とともに、郵便またはFAXにて6月30日までに、研究委員会委員長河村宛て（〒612 京都市伏見区深草塚本町67 龍谷大学経済学部/FAX 075 (643) 8510）に送付してください。

②『日本村落研究学会 研究通信』にレジメを掲載しますので、8月31日までに東京学芸大学教育学部社会科学学科高田研究室・村研学会事務局宛て（〒184 東京都小金井市貫井北町4-1-1 TEL 0423 (25) 2111/FAX 0423 (21) 6010）に送付してください。

なお、申し込まれた会員全員に報告をして頂きますが、報告時間・質疑応答時間の配分は報告申し込み者数の多少によって変わりますのでご了承ください。参考のために、昨年度の大会では、自由報告の持ち時間は全部で45分でした。

学会改革が決定された第40回大会（於：天草）では、大会運営の基本姿勢として、「当分、特定の大会テーマを設けず、自由報告を重視する」こと、および、「複数の会員による自主的なグループ研究を奨励し、成果のあるものについては、そこでのテーマを全体のテーマとする」ことなどが決定されています。この背景には、「学会大会は、本来、会員が自主的に研究成果を発表し、会員間の忌憚のない相互批判・評価によって、その研究を主体的により深化させる場である」との共通認識があったと理解しています。会員名簿に会員の研究分野を付け加えましたのも、複数会員の自主的なグループ研究を推進するための環境を整えるためです。

昨年の大会では、熊谷（松田）苑子会員・細谷昂会員によって、インタレスト・グループへ向けてのテーマ・セッション「農業と女性－労働と意識の変化をめぐる－」が企画されました。本年度の大会では、同様の趣旨から、嘉田会員による「環境」のテーマ・セッションが企画されています。